

第 19 回 新潟県社会教育研究大会佐渡大会 令和元年度 下越地区社会教育研究集会
視察記録（文責：角野仁美）

【研究主題】「生涯学び活躍できる環境づくりと文化の振興～地域課題を活かす社会教育の役割～」

【期日】令和元年 10 月 18 日（金） 10：30～15：00

【会場】佐渡島開発総合センター

【内容】

1) 開会式・表彰式

2) 講演「重要文化的景観選定と笹川集落の地域づくり」

—佐渡市世界遺産推進課 調査係 若林篤男氏

*文化的景観とは：1992 年に生まれた世界遺産の保護の考え方（文化財の中に位置づけられる）

→各地域が持っている固有性が開発の中で失われていく中で、地域資源や地域景観、地域生態系といったものが注目されるようになり、それらをどのように保護していくのかが重要なテーマとなってきた

*どこにでも文化的景観はある。無いものをさがすのではなく、あるものを活かす視点が重要

4) 分科会（全 3 会場）

①上越市：行政と社会教育委員との協働による社会教育事業の進め方～「元気の出るふるさと講座」を通して～

②湯沢町：湯沢学園の保小中一貫教育の取組と社会教育委員の関わり

③村上市：地域ネットワークの形成に向けて～郷育のまち・村上 社協委の取組み～

<第 3 分科会の内容について>

*市町村合併により広域化した市域には居住の拠点（コミュニティ）が点在し、その多くで少子高齢化が進んでいる。中でも少子化が顕著で、小中学校の統廃合により、学校を中心としていた地域コミュニティの変化・広域化が見られるようになってきた。

*市内の小中学校区単位での住民自治組織「地域まちづくり協議会」を 17 団体発足させ、市税収入の 1%（約 6000 万円）を交付して、主体的な住民自治への育成、活性化を図っている。

*社会教育委員はこれまで、行政側からの諮問に対する協議を行い、答申するという形態にとどまっていたが、少子化による将来への継続性が不安視されることを受け、政策提言を行うべきとの考えが示された。これまでの会議主体の活用から、調査研究を経て提言を行うことに転換した。

→平成 30 年度より、各社会教育委員から調査・研究のテーマを募集し、以下 4 つに集約した

（地域ネットワーク、伝統・歴史伝承、循環型社会構築、スポーツ・青少年）

*それにより委員自身が、自身の生活ベースで地域課題を捉えられている。社会教育委員の活動の活性化が感じられる。課題として、日中に会議が行われることで全員参加が難しいこと、事務局に頼ってしまうことが挙げられる。メール活用によって効率化を計っている。